

「絵は見せるために描くのではなく  
自然と出会うために描く」



自分が自然の一部で  
自然の摂理の中に在ることと出会う」

——木葉井悦子のノートより——

2004年 特別展

# —大地といのちを描いた画家— きばいえつこ 木葉井悦子の世界展

会期 ● 2004年6月3日(木)～28日(月)



木葉井悦子(1937-1995)  
東京都小金井市に生まれる。武蔵野美術大学にて油絵を学んだのち、絵画制作に打ち込む。アフリカに傾倒し、その潜在の体験をもとにした初めての絵本「あかいめのしろへび」(1978年)を出版後、絵本作りに携わる。代表作品に「みずまき」(講談社)、「カボチャありがとう」(架空社・共に1994年刊)などがある。

「わたしも」©1991  
Etsuko Kibai

後援/長野県、軽井沢町、  
軽井沢町教育委員会、絵本  
学会、(社)日本国際児童図  
書評議会、信濃毎日新聞社、  
信越放送、長野放送、テレ  
ビ信州、長野朝日放送、軽  
井沢エフエム放送

木葉井悦子は生涯で17冊あまりの絵本を世に送り出し、そのほかに本や雑誌の挿絵も手がけました。また油絵を中心とした作品を個展で発表するなど、一生を通して「描くこと」に真剣に向かい合った女性でした。

木葉井の絵本をめくると、のどかな野山に遊び、動物や植物、風や雲とふれあう主人公たちに出会います。画家が幼い頃に駆けめくった武蔵野の森、生涯を通して深く愛したアフリカ、晩年に魂を近く寄せていた仏教など、その作品にはみずからの来し方が反映されていると言えます。

本展では、初公開作品を含めたおよそ150点を展示し、木葉井の軌跡をたどります。

【出品作品】「ぼんさいじいさま」(1984年)／「サバクでおちやを」(1984年)／「わたしも」(1991年) ほか

併設展：欧米絵本のあゆみ —書物という人類の宝—

- ①木葉井悦子ってどんな人？ 木葉井にまつわるエピソードを紹介
- ②原色と淡色の世界～絵本原画～ 絵本の原画3作品をほぼすべて公開
- ③モノクロームの世界～ペン画・墨絵など～ ペンのみや墨一色で描かれた作品
- ④虹色の世界～額絵～ 主に個展で発表されたタブロー(額絵)作品

えほんサロン★軽井沢のつどい 2004 6月26日(土) 14時～17時

※詳しくはお問い合わせください

- 開館時間 9:30～17:00(最終入館は閉館時間の10分前) ※最終日6/28は14時閉館 ■休館日 火曜日
- 入館料 大人800円 中高生500円 小学生400円  
(エルツおもちゃ博物館とのセット券：大人1000円、中高生700円、小学生500円)

ムーゼの森 総合インフォメーション

tel.0267-48-3340 URL <http://www.museen.org> E-mail [info@museen.org](mailto:info@museen.org)

fax.0267-48-2006 〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1

EHON IN THE FOREST  
軽井沢絵本の森美術館  
KARUIZAWA MUSEUM OF PICTURE BOOKS

